

**令和5年度 第2回
国立大学法人北海道大学総長選考・監察会議議事要旨**

日 時 令和5年9月14日(木) 13:15~15:10

場 所 北海道大学事務局 中会議室A

出席者 9名

(学外) 杉江、小坂、松沢、渡辺 各委員

(学内) 尾崎、網塚、畠山、野口、居城 各委員

欠席者 1名

(学外) 五十嵐 委員

オブザーバー

山口理事、横田理事、増田理事、高橋監事、石川監事

配付資料

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1 | 総長の業績評価 各委員による書面審査結果一覧 |
| 2 | 国立大学法人北海道大学総長選考・監察会議規程の一部改正(案) |

議 事

議事に先立ち、令和5年6月14日に開催された令和5年度第1回総長選考・監察会議の議事要旨について確認があった。引き続き、事務局から、会議の進行について説明があった。

【 議 題 】

1 総長業績評価のためのヒアリングについて

総長の業績評価として、寶金総長に対するヒアリングを行った。

寶金総長の退室後、委員による意見交換の結果、評価結果については資料1及びヒアリング結果を踏まえて「順調である」とすること、評価書に記載する意見等については、後日、委員に内容を確認した上で確定し、総長へ伝達することが了承された。

(主な意見)

- ・ HU VISION 2030 を Excellence と Extension という二軸でわかりやすく策定したことは、高く評価できる。
- ・ 未来戦略本部を中心に、DX、経営的収入、女性登用などのテーマを取り上げたことは高く評価するが、大学経営のあり方として、PDCA サイクルを回す体制を一層整えていくことを期待する。
- ・ 指定国立大学や国際卓越研究大学については、申請のリスクよりも、外部からの評価やレピュテーションの向上といったメリットが遙かに大きいので、今後の申請・獲得に期待する。
- ・ 大学執行部の熱量と、個々の学生・教職員の感覚との間に、ギャップが生じているように思われる。
- ・ 学内外との積極的なコミュニケーションにより、本学の強み・特色を端的にわかりやすく発信している。
- ・ 組織の運営にあたって、また国際卓越研究大学のような挑戦的な課題に取り組むにあたっては、「選択と集中」の観点からリーダーとして難しい判断が必要な局面も生じるが、その副作用にも十分配慮した上で、覚悟を持って適切に対応願いたい。
- ・ 外部資金獲得などに、URA を積極的に活用している。

2 総長選考・監察会議規程の改正について

事務局から、資料2に基づき説明があった後、審議の結果、資料のとおり国立大学法人北海道大学総長選考・監察会議規程を一部改正することが了承された。引き続き議長から、今後、軽微な修正については議長に一任願いたい旨発言があった。

議長から、本規程が改正された後には、副議長として畠山委員を指名することについて説明があった。

(以 上)